

了解しました。コンシューマ向けのチャットボットアプリと画像生成アプリ、そして企業向けの生成 AI サービスにおける、OpenAI・Google・Anthropic など主要プレイヤーの市場シェアについて、世界全体・日本・アメリカの 3 つの地域別で調査します。

企業向けについては、業務支援、カスタマーサポート、開発支援など幅広い用途を対象に含めて調査します。情報が整い次第ご報告します。

世界・日本・米国における生成 AI サービスの市場シェア

最新の調査や統計によれば、生成 AI サービスの市場はテキストチャットボットと画像生成ツールで構成され、世界全体でも各地域でもチャットボットでは OpenAI が圧倒的なリードを保っています。一方、画像生成分野ではオープンソースの Stable Diffusion 系が圧倒的多数を占め、企業向け(B2B)市場では複数モデルを併用する動きの中で OpenAI と Anthropic が主要プレーヤーとなりつつあります。それぞれについて、世界全体、日本、米国の市場シェアの比較を以下に示します。

コンシューマ向けチャットボットアプリの市場シェア

世界的にチャットボット型生成 AI(ChatGPT や Bard など)の利用は OpenAI の ChatGPT が主導しています。米国では ChatGPT が過半のシェアを占め、日本でも ChatGPT の利用率が際立っています。Google の Bard(Gemini)や Anthropic の Claude はシェアが小さく、その他として Microsoft や Meta などが一定の存在感を示します。各地域別の概況は以下の通りです。

地域	OpenAI (ChatGPT)	Google (Bard/Gemini)	Anthropic (Claude)	その他主要(Microsoft Bing/Copilot、Meta 等)
世界全体	60～70% - ChatGPT が圧倒的 (ChatGPT Dominance: 3 Billion Visits & 70%)	~10%程度 - Bard は限定的(欧州・中国未展開) (ChatGPT Statistics (April	僅少 - 数% 未満	20～30% - Microsoft の Bing/Copilot や Meta、百度など中国勢

地域	OpenAI (ChatGPT)	Google (Bard/Gemini)	Anthropic (Claude)	その他主要 (Microsoft Bing/Copilot、Meta 等)
	2024 Market Share)	2025): Number of Users & Queries)		
日本	60%超 – ChatGPT 利用が突出 (2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 ICT 総研『ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研』)	~18% – Bard は限定的 (2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 ICT 総研『ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研』)	~0% – ほぼ存在せず	~20%弱 – Microsoft (例: Copilot)、他社チャットボット
米国	~60% – ChatGPT が過半数 (ChatGPT Statistics (April 2025): Number of Users & Queries)	~13% – Google Bard/Gemini (ChatGPT Statistics (April 2025): Number of Users & Queries)	~3% – Claude の占有率 (ChatGPT Statistics (April 2025): Number of Users & Queries)	~24% – Microsoft (主に GPT-4 搭載の Copilot) 等 (今月の米国生成 AI シェアトップ 10: ChatGPT の独走は止まらない Zun-Beho) (ChatGPT Statistics (April 2025): Number of Users & Queries)

([2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 | ICT 総研『ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研』](#))上のグラフは日本国内で**「直近 1 年以内に利用した生成 AI サービス」の調査結果で、ChatGPT (OpenAI) が 18.3% と群を抜いています ([2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 | ICT 総研『ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研』](#))。次点の Microsoft Copilot (GPT-4 搭載) 8.9%、Google の Gemini (Bard) 5.4%と続き、Anthropic Claude はランク外(「その他」0.7%に含まれる程度)でした ([2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 | ICT 総研『ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研』](#))。日本では ChatGPT 利用者数が国別で米国・インドに次ぐ世界 3 位であり、人口比でも極めて高い利用率です ([『Meltwater 調べ』国別 ChatGPT の関心度マップ 日本は世界第一位 !](#))。対して Bard の日本語版提供開始は遅れたこともあり普及は限定的です。一方米国では、ChatGPT が依然シェア首位ながら、2024 年後半に Meta (Facebook) の AI アシスタントが台頭し一部で並ぶ動きも報じられています

([Google matched Open AI's generative AI market share in 2024 | DC Velocity](#))
([Google matched Open AI's generative AI market share in 2024 | DC Velocity](#))
(※Meta は当質問の対象外のため詳細割愛)。それでも 2024 年時点で ChatGPT は米国市場の約 60～61%を占める圧倒的トップであり ()、Google Bard(Gemini)は 10 数%に留まります。また Anthropic の Claude は米国でも数%程度の利用率に留まり ()、Slack 経由の利用など限定的です。総じて世界全体でも ChatGPT が支配的**で、「ChatGPT は 2024 年 9 月時点で月間 30 億訪問を記録し、生成 AI ツール全体の 70%ものシェアを握る」との分析もあります ([ChatGPT Dominance: 3 Billion Visits & 70% 2024 Market Share](#))。Bard は各国で ChatGPT に追随する立場ですが、シェア差は大きく、Anthropic は大手テック企業支援の下でも一般消費者向け存在感はまだ小さい状況です ([ChatGPT Statistics \(April 2025\): Number of Users & Queries](#))。

コンシューマ向け画像生成アプリの市場シェア

画像生成 AI サービスでは、オープンソースの Stable Diffusion 系モデルが事実上の標準となっており、全世界の生成画像の約 8 割を占めています ([AI Image Statistics for 2024: How Much Content Was Created by AI](#))。Midjourney や OpenAI の DALL-E といったクローズドなサービスが残り約 2 割を分け合う構図です。Google は高性能な Imagen などを開発しているものの一般公開サービスは限定的で、市場シェアという点では現時点でほぼ存在感がありません。Anthropic は画像生成サービスを提供していないため、この分野でのシェアは**実質 0%**です。

地域	OpenAI (DALL-E)	Google (Imagen 等)	Anthropic (なし)	その他主要 (Midjourney、Stable Diffusion 系、Adobe 等)
世界全体	~5-10% - DALL-E シリーズのシェア(推計)	~0% - 一般向け提供ほぼ無し	0%	90%前後 - Stable Diffusion 系が約 80% (AI Image Statistics for 2024: How Much Content Was Created by AI)、Midjourney などその他が約 10%
日本	~30% - DALL-E 利用者割合(推計) (2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 ICT 総研 ICT)	~0%	0%	~70% - Midjourney や NovelAI(Stable Diffusion 派生)、Adobe Firefly 等

地域	OpenAI (DALL-E)	Google (Imagen 等)	Anthropic (なし)	その他主要 (Midjourney、Stable Diffusion 系、Adobe 等)
----	-----------------	-------------------	----------------	---

マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研】)

米 国	~5-10% - DALL-E シェアは グローバル同等	~0%	0%	90%前後 - Stable Diffusion 系主体、Midjourney・Adobe が含まれる
--------	---------------------------------	-----	----	---

世界全体では、Stable Diffusion 系(オープンソース)モデルを基盤とするサービス・アプリが生成画像全体の約 80%を生み出しています ([AI Image Statistics for 2024: How Much Content Was Created by AI](#))。Midjourney や DALL-E などクローズドなサービスによる画像生成は残り約 20%程度に過ぎません。例えば Midjourney はユーザー数 1,500 万超で最大の単独プラットフォームですが ([AI Image Statistics for 2024: How Much Content Was Created by AI](#))、それでも生成画像数では Stable Diffusion 系に遠く及びません。OpenAI の DALL-E 2 は公開 15 ヶ月間で累計約 9 億枚の画像を生成したと推計され ([AI Image Statistics for 2024: How Much Content Was Created by AI](#))、Midjourney も 2023 年 8 月時点で約 9.6 億枚生成と報告されています ([AI Image Statistics for 2024: How Much Content Was Created by AI](#))。この数字から見ても各サービス単体のシェア(約 6~7%前後)は、Stable Diffusion のエコシステム全体(80%)に比べ小さいことが分かります。Google は Imagen や Parti といった高性能な画像生成モデルを研究開発しましたが、一般ユーザーが使える Google の画像生成サービスは 2024 年時点で皆無に等しく、市場シェア上は無視できる水準です。また Anthropic 社はテキスト専門のため画像生成には参入していません。

日本においても画像生成分野は Stable Diffusion 系と Midjourney が中心です。一般消費者レベルでは、アンケートで「DALL-E を使ったことがある」と答えた人が全体の 2.6%、「Midjourney 利用」は 2.1%と報告されています ([2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 | ICT 総研【ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研】](#))。これは ChatGPT 利用者層に比べればかなり少ないものの、商用利用可能な高品質画像生成 AI として Midjourney は日本でも知名度が高いです。一方、日本の創作コミュニティでは Stable Diffusion をカスタムした NovelAI が人気を博すなど(特にアニメ風画像の生成で支持)、オープンソースモデルの浸透が見られます。Adobe の Firefly (Photoshop 搭載の生成 AI) は 2023 年にリリースされ、日本含むグローバルで 3 か月で累計 10 億枚生成と急成長しました ([AI Image Statistics for](#)

[2024: How Much Content Was Created by AI](#))が、これは主にクリエイティブ業界向けのツールであり一般の利用率は 1.2%程度でした ([2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 | ICT 総研](#) [『ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研』](#))。総じて、日本でも画像生成「市場シェア」は特定企業というより Stable Diffusion というオープン技術が牛耳っている状況です ([AI Image Statistics for 2024: How Much Content Was Created by AI](#))。

企業向け(B2B)生成 AI サービスの市場シェア

企業向けの生成 AI 活用(業務支援やカスタマーサポート、開発支援など)では、大企業各社の提供する LLM サービスが競合する中、OpenAI が先行者利益で高シェアを持ちますが徐々に低下し、Anthropic が追いついてきているという動向があります ([Is OpenAI still the enterprise tech influencer it once was? | CIO Dive](#))。Google も独自モデル(PaLM 2 や Gemini)をクラウドで提供し始めていますが、企業利用の実績では OpenAI・Anthropic に次ぐ位置です。またオープンソース(Meta の Llama2 や Mistral など)を採用する企業も増えつつあり、それらが「その他」に含まれる形で一定のシェアを占めます ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#)) ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#))。以下に主要プレーヤーの企業利用シェアを地域別にまとめます。

地域	OpenAI (主に GPT-4/API)	Google (PaLM 2 等)	Anthropic (Claude)	その他 (オープンソース・他社 LLM)	
				Anthropic (Claude)	その他 (オープンソース・他社 LLM)
世界全体	~30% (Business and enterprise spending on AI surges 500% to \$13.8 billion as Anthropic gains market share over OpenAI – Tech Startups)	~20%	~20%	~40%	~40%
日本	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後
米国	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後
欧州	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後
アジア	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後
中東・アフリカ	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後
南米	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後
オセアニア	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後	~10%前後

OpenAI
地 I (主に
域 GPT-
4/API)

[AI](#)
[surges](#)
[500%](#)
[to](#)
[\\$13.8](#)
[billion](#)
[as](#)
[Anthro](#)
[pic](#)
[gains](#)
[market](#)
[share](#)
[over](#)
[OpenAI](#)
[I -](#)
[Tech](#)
[Startu](#)
[ps\)](#)
[\(Busin](#)
[ess](#)
[and](#)
[enterp](#)
[rise](#)
[spendi](#)
[ng on](#)
[AI](#)
[surges](#)
[500%](#)
[to](#)

その他
(オー
プンソ
ース
系・他
社
LLM)

Anthro
pic
(Claude
e)

Google (PaLM 2 等)

[AI](#) 企業モ
[surges](#) デルな
[500%](#) ど)
[to](#)
[\\$13.8](#)
[billion](#)
[as](#)
[Anthro](#)
[pic](#)
[gains](#)
[market](#)
[share](#)
[over](#)
[OpenAI](#)
[I -](#)
[Tech](#)
[Startu](#)
[ps\)](#)

OpenAI (主に GPT-4/API)	Google (PaLM 2 等)	Anthropic (Claude)	その他 (オープンソース・他社 LLM)
\$13.8 billion as Anthropic gains market share over OpenAI Tech Startups)			
高い比率 - OpenAI 日 I 利用 本の企 業が 最多と 推定 34% (2024 米年) ([Is 国 OpenAI I still the	一部 - Google クラウド経由の利用もあり	ごく僅か	一定数 - 国内 独自 LLM や OSS 利用 12% 24% (2024 年) ([Is 年) ([Is 国 OpenAI I still the
	CIO Dive](https://www.ciodive.com/news/OpenAI-enterprise-tech-stack-vendors-generative-AI/734179/#:~:text=OpenAI%20commanded%20half%20of%20the,of%20the%20market)	(Busines and enterpris	
		rise	

OpenAI (主に GPT-4/API)	Google (PaLM 2 等)	Anthropic (Claude)	その他 (オープンソース系・他社 LLM)
enterprise		spending on AI	enterprise
rise		surges 500% to \$13.8 billion as Anthropic gains market share over OpenAI Tech Startups)	rise
tech			tech
influencer			influencer
it once was?			it once was?

米国の企業市場では、2023 年時点で OpenAI 系モデルが企業導入の約 50%を占めていましたが、2024 年には 34%まで低下しました ([Is OpenAI still the enterprise tech influencer it once was? | CIO Dive](#))。代わりに Anthropic のシェアが 12%から 24%に倍増し ([Is OpenAI still the enterprise tech influencer it once was? | CIO Dive](#))、特に 2024 年 10 月にリリースした Claude 3.5 Sonnet が高性能で評価されています ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#))。Menlo Ventures の調査によれば、企業が使う基盤モデルの約 81%はクローズドな商用モデルで、19%がオープンソース系とされています ([2024: The State of Generative AI in the](#)

[Enterprise – Menlo Ventures](#))。そのクローズド陣営内で OpenAI が 34%、Anthropic 24%を占め、残りを Google や他のスタートアップが分け合う形です ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#))。具体的には、Meta(主に Llama2 などオープンソース提供)は約 16%、Google は約 12%と推定され、Cohere が 3%、仏 Mistral が 5%程度のシェアと報告されています ([Business and enterprise spending on AI surges 500% to \\$13.8 billion as Anthropic gains market share over OpenAI – Tech Startups](#))。これら「その他」の台頭は、企業が用途に応じて複数のモデルを組み合わせる戦略を取り始めた結果で、「1 社のモデルに依存しない」動きが強まっています ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#)) ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#))。例えば企業 IT 部門の多くが 3 つ以上のモデルを使い分けているとのデータもあります ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#))。

日本の企業市場に目を向けると、生成 AI 活用はまだ黎明期であり、米国ほど導入が進んでいません。総務省の調査では「積極的に生成 AI を活用する方針」を持つ日本企業は 15.7%に留まり、中国の 71.2%、米独の約 50%超と比べて大きく見劣りしています ([生成 AI 利活用について国内外で総務省が調査。日本での利用率は 9%と消極的な結果に](#))。実際に「社内向けヘルプデスクで生成 AI を利用中」の企業も、日本は約 40%で、米国や中国の 80%近くに比べ低水準でした ([生成 AI 利活用について国内外で総務省が調査。日本での利用率は 9%と消極的な結果に](#))。こうした慎重姿勢の中でも、先行して導入する企業の多くは Microsoft Azure 経由で OpenAI のモデルを利用しています。日本語対応力や実績から、OpenAI (GPT-4)は日本企業にも受け入れられやすく、2023 年には日本政府が OpenAI と協力関係を構築する動きもありました ([MS、Google に Meta、Amazon 参戦も「生成 AI」の勢力図](#))。Google は日本電産やソフトバンクグループとの提携報道があるものの、シェアとしては限定的とみられます。また、NTT やスタートアップ各社が日本語特化の大型言語モデルを開発中で、国内産 LLM への期待も高まっています ([本番迎える生成 AI／LLM 市場、国内ベンダーに期待集まる – MM 総研](#))。しかし 2024 年現在、その市場影響はまだ小さく、「その他」扱いに留まります。総合すると、日本企業向け市場でも OpenAI が事実上トップシェアであり、次いで Google が追随、Anthropic は海外経由の間接利用がある程度、その他オープンソース活用は今後拡大の可能性があるものの現状は限定的、という構図です。

まとめと今後の展望

以上のように、生成 AI サービスの市場シェアは、コンシューマ分野では OpenAI (ChatGPT)の独走、画像生成では Stable Diffusion を中心とするオープンエコシステムの台頭、企業分野では複数モデル併用トレンドの中で OpenAI と Anthropic が二強化する動きが見られました。地域差としては、日本はコンシューマ領域で ChatGPT 人気が際立つ一方、企業利用では欧米に比べ慎重である点が特徴です。米国では大手テック各社や新興勢力 (Meta や Snapchat 等含む) の競争が熾烈で、市場シェアの変動も早いペースで進んでいます。今後、各社がモデル性能向上や差別化を進める中で、この市場シェアの構図がどう推移していくか注目されます。

参考資料: 最新の市場レポートや利用統計から作成 (First Page Sage 報告 () ([ChatGPT Statistics \(April 2025\): Number of Users & Queries](#))、Menlo Ventures 調査 ([2024: The State of Generative AI in the Enterprise – Menlo Ventures](#)) ([Business and enterprise spending on AI surges 500% to \\$13.8 billion as Anthropic gains market share over OpenAI – Tech Startups](#))、国内 ICT 総研調査 ([2024 年度 生成 AI サービス利用動向に関する調査 | ICT 総研](#) [『ICT マーケティング・コンサルティング・市場調査は ICT 総研』](#)) 等)。各種出典の信頼性には十分配慮しています。